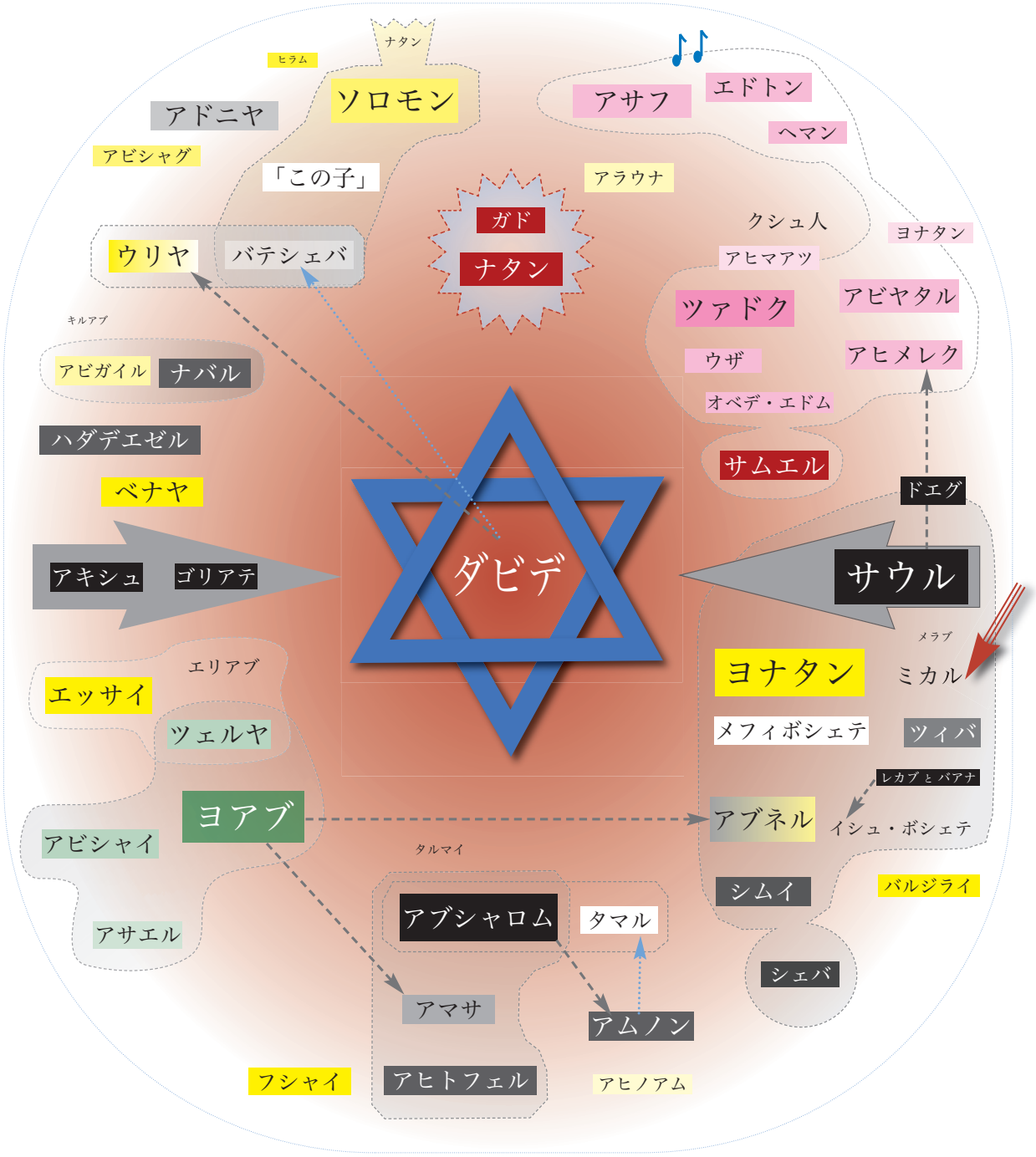
祈祷会学びシリーズ　No. 4　『ミカル』

ダビデを



取り巻く人々

ミカルについて

1. ミカルは、サウル王の２人の娘のうちの下の娘でした。 (1 サム 17:25, 18:19)。ダビデがゴリヤテに勝利した時、長女のメラブが彼の妻になるはずでしたが、その代わりに彼女が妻として与えられました。(1サム17:25, 18:19)

2. ミカルのダビデとの結婚は、父親によって決められたものでした。ダビデがペリシテ人に殺されるように、自分の娘をおとりにしたサウルの陰謀(1サム18:21)が、ミカルにどの程度わかっていたかは記録されていません。

3. ミカルがダビデと結婚したのは、おそらく彼女が２０歳になる前だったでしょう。この若い花嫁がダビデと一緒にいた期間は、短いものでした。サウルがすぐに彼を追い出したからです。

4. 1サム25:44によると、ミカルは次にパルティの妻とされます。2サム3:12~16で彼について少しわかります。彼はおそらくミカルを大切にしたでしょうが、どうも権威を持った男らしい人ではなかったようです。ミカルがダビデの所に返された時、彼は泣いたと書いてありますが彼女が泣いたとはありません。

5. ミカルは５０年かそれ以上生きたと思われます。彼女の事は第1と第２サムエルに記されています。しかし、2サム６章の後は彼女については何も書かれていません。（２サム21:8参照）

6. おそらくミカルの事が一番良くわかるのは、2サム6:16~23の出来事でしょう。ミカルは、契約の箱がエルサレムに戻ってきた喜びを、ダビデと共に分かち合うことはしませんでした。そのかわり彼女の心は、外見的なことにもっと捕われていました。

質問

1. ミカルについて２つの基本的な質問が考えられます。１つは、彼女はダビデにとって良い妻であったかどうか。もしそうでなかったとしたら、なぜか。２つ目は、彼女はダビデのように信仰深い女性だったかどうか、という事です。

2. ダビデを裏切り、父親に渡す機会があった時、彼女は実際にそうしましたか？1サム19:11~17を見て下さい。その危機的な時点で、彼女は父親の側に立ちましたか？それとも？

3. ミカルは、ダビデの他の妻たちと比べてどうでしたか？彼女はアビガイルのように（1サム25）知恵があり自己中心ではなかったですか？またバテシェバのように姦淫を犯しましたか（2サム11）？

4. もしミカルが本当にダビデを愛していたのなら（1サム25:44)、なぜパルティと再婚(1サム18:20)したのでしょうか？彼女は無理矢理そうさせられたのですか？明らかなのは、彼女は2サム３章で無理矢理にダビデの元に返された事です。

5. なぜダビデは、アブネルにミカルを自分の妻として取り返させたのでしょう（2サム3:12~16参照)？彼の動機は政治的なものでしたか？それは申命記24:4に照らし合わせると、正しい事でしたか？もし正しくなかったのなら、なぜナタンか他の預言者はそれについて彼をとがめなかったのでしょう？ダビデがすでに他に６人の妻と６人の息子を持っていた事に注目して下さい（2サム3:2~5)。

6. ミカルが偶像を家に持っていた事から（1サム19:13)、彼女の信仰と性質についてどんなことがわかりますか？

ミカルは...

1サム18:17-30, 19:11-17, 25:44, 2サム3:12-16, 6:16-23から考えて下さい。

( ) **良い妻だった？**

- ( ) ダビデにとって落とし穴となった (1 サム18:21, 19:11-12)?
- ( ) ダビデを愛していた (1サム18:20, 25:44)?
- ( ) ヨナタンのように、誠実だった (1サム19:11-17, 25:44)?
- ( ) 強い、現実的な女性だった（19:11-12)？
- ( ) バテシェバのように、姦淫をした (1 サム25:44)?
- ( ) 偶像崇拝者だった (1サム19:13, 16)?
- ( ) 傲慢だった (2サム6:16-22)?

( ) **幸せな妻だった？**

- ( ) 父親のサウルに利用された (18:21, 25:44)?
- ( ) ダビデに愛された (1サム18:22-27, 2サム3:13-16)?
- ( ) ダビデに顧みられなかった (2サム6:20-23)?
- ( ) ５人の息子を持った (2 サム 6:23, 21:8-9)?
- ( ) 喜んでダビデの元に帰った (2 サム 3:12-16)?
- ( ) パルティエルに愛された (2 サム 3:12-16)?
- ( ) 状況の犠牲者だった？

適用

合っていると思うものには◯、違っているものにはX、どちらでもないものには△をつけましょう。

ミカル

ミカルについて、１つの特徴をあげるとしたら、あなたは何をあげるでしょうか？おそらく中心的な事は、彼女は世的な女性であり、それゆえにダビデの妻として霊的に合わなかった、という事でしょう。

彼女はダビデと結婚した時、若くて健康でした。２階の窓からダビデを降ろすほど 強かったようです（1サム19:12)。彼女はまた彼女の父親がダビデを追っていた時、その危険に対してダビデを逃がすように、知恵を用いて助けました(19:11-14)。肉体的に、精神的に、また政治的に、彼女はダビデにふさわしい助け手であったと言えるかもしれません。

しかしミカルは、霊的にはダビデのようではありませんでした。彼女は、2サム6章で契約の箱がエルサレムに戻った時、ダビデと同じようには喜びませんでした。ダビデは喜びにあふれるほどでしたが、ミカルは、人々が一体どう思うかという事をより大きく考えました。またダビデとヨナタンの関係においては、互いの誠実さがその特徴でしたが、ミカルはパルティエルとの結婚に見られるように(1サム25:44)、日和見主義だったと言えます。そこには王の娘として、また気の強い女性として、おそらく彼女の意志もあったでしょう。２サム６章の、彼女のあけすけで批判的な物言いにそれが表われています。

下の図に、ミカルについて上記の要点を含めた特徴がまとめてあります。ミカルが世的で、霊的にはダビデと合わなかった事が中心にあり、それと関係して他のポイントがその回りに置かれています。

ミカルは...

私たちは世的なミカルのようでなく、ダビデやヨナタンのような信仰を持つという事が明らかな適用です。1サム19:13に彼女が偶像崇拝者であったと直接書いてはありませんが、他の箇所から見ても、彼女は目に見えるところによって生きていたようです。私たちはどうでしょうか？